

C220M4 および C240M4 オプション ROM の問題

内容

[概要](#)

[影響を受ける可能性のあるシステム \(最大1,1000台のサーバ\):](#)

[お客様の可視性と影響:](#)

[回避策:](#)

概要

このドキュメントの目的は、一部のCisco C220 M4およびC240 M4サーバで見られるPeripheral Component Interconnect Express(PCIe)オプションROM設定に関連する製造上の問題に対処することです。多くのCシリーズサーバは、誤ったPCIeオプションROM設定をお持ちのお客様に出荷され、多くのPCIeベースデバイス(RAIDコントローラ/シリアル接続SCSI(HBA)、マザーボード上のモジュラLAN(MLOM)など)へのブートをできないHBA以下の手順は、この影響を受けるお客様の解決に役立ちます。

影響を受ける可能性のあるシステム (最大1,1000台のサーバ):

C220 M4:2月14日 ~ 3月28日の間に出荷されたシステム

C240 M4:2月14日 ~ 3月28日の間に出荷されたシステム

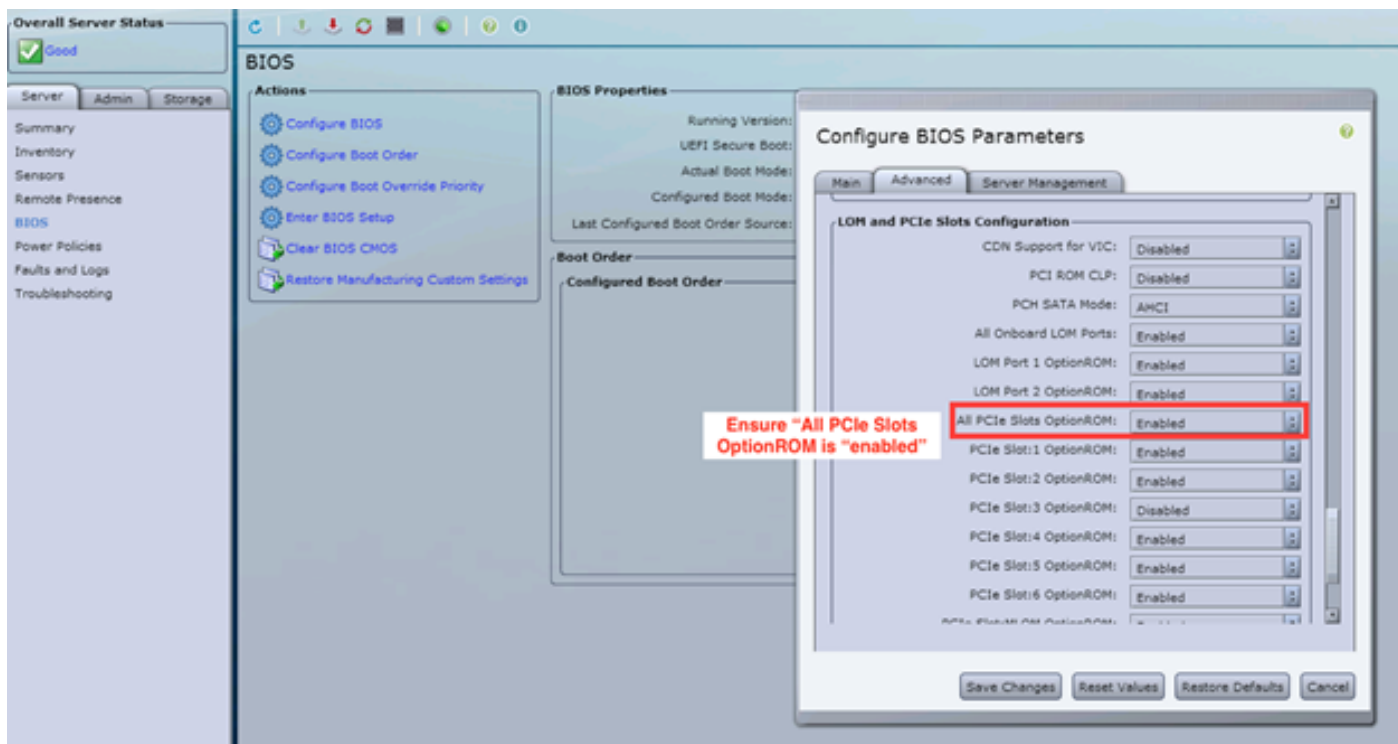
お客様の可視性と影響:

「All PCIe Slots OptionROM」フラグが無効になっているため、PCIe Slotベースのデバイスからブートできません。お客様はこのBIOSトークンを切り替える必要があり、次に示す回避策を使用して切り替えることができます。

回避策:

回避策#1 (推奨):

IMCにログインし、次に示すように、[Summary]、[BIOS]、[Configure BIOS]、[Advanced]タブに移動します。

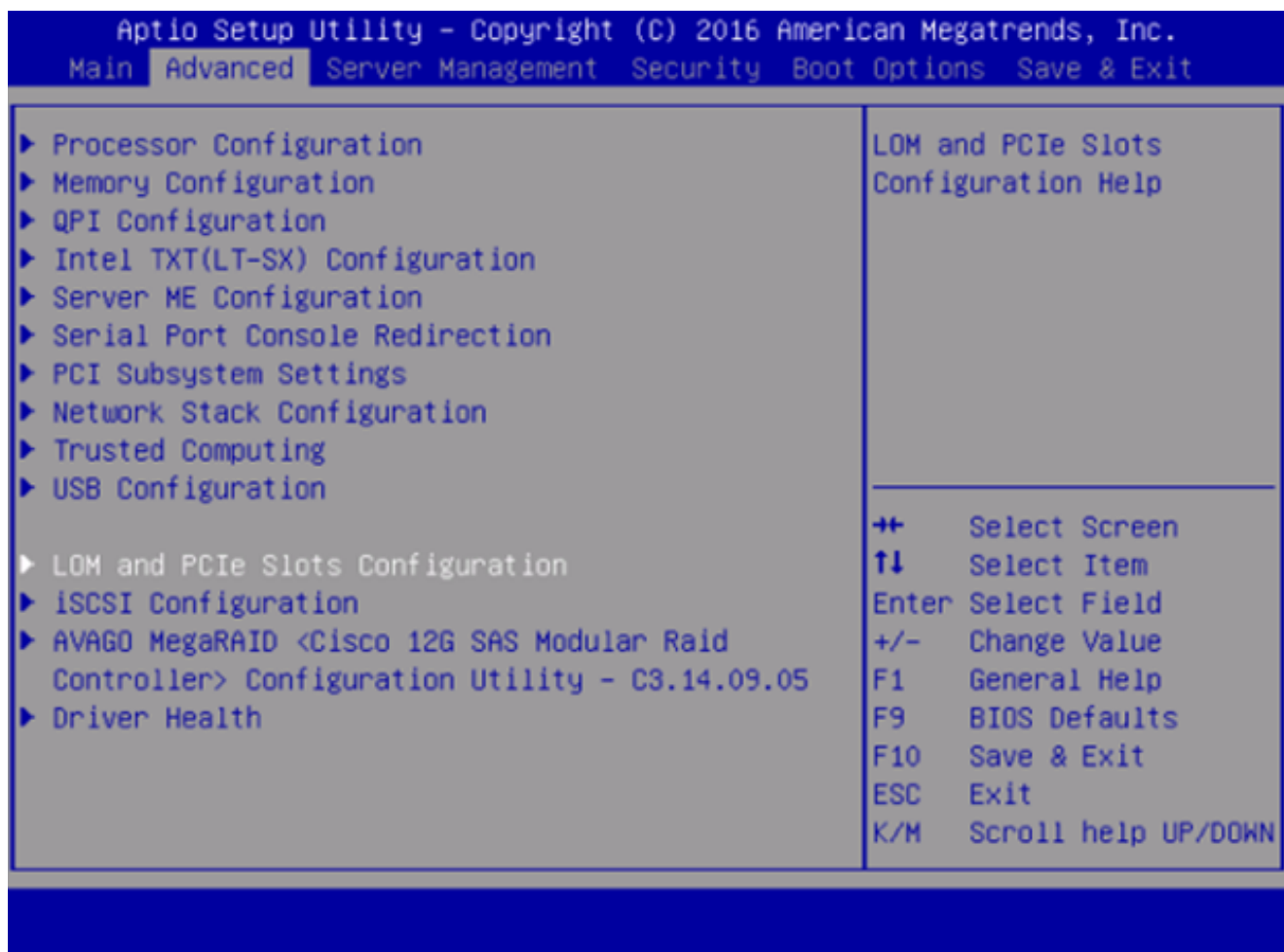


[All PCIe Slots OptionROM]フラグを[enabled]に設定します。変更を保存し、ホストを再起動します。

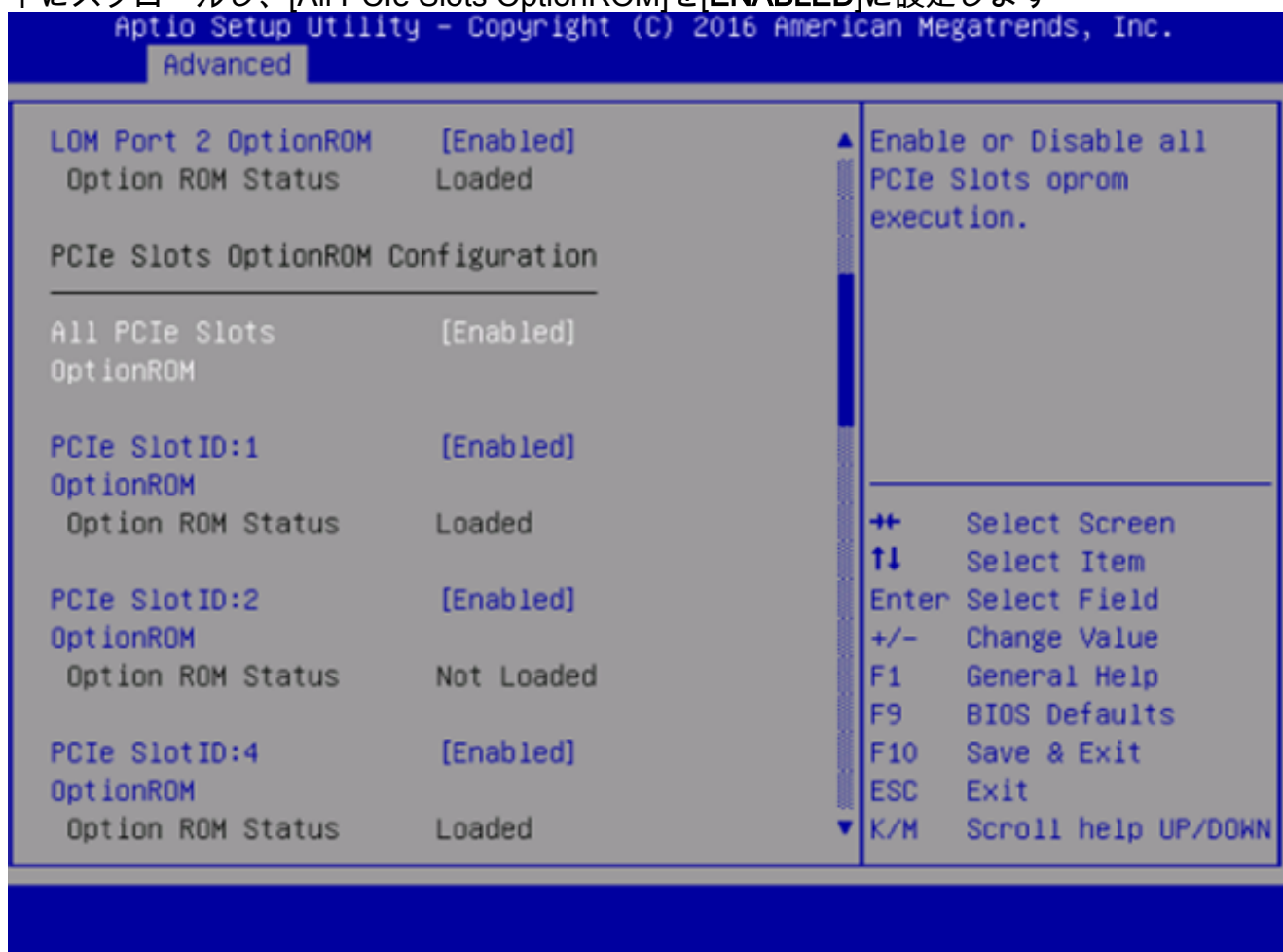
回避策#2:

クラッシュカードに接続し、vKNMをシステムに起動します。システムの電源をオンにし、F2メニューを使用して、「All PCIe Slots OptionROM」フラグをENABLEDに設定します。

1. [Advanced LOM and PCIe Slots Configuration]タブに移動し、Enterキーを押します



2. 下にスクロールし、[All PCIe Slots OptionROM]を[ENABLED]に設定します



3. F10を押して変更を保存し、サーバをリブートします。

回避策#3:

注：この回避策は、Cisco IMCがオンラインであり、IPが既知であることを前提としています。このスクリプトでは、デフォルトのadmin/passwordのIMCクレデンシャルも使用されるため、これらのクレデンシャルが変更されている場合は、必要に応じて\$passフィールドを変更する必要があります。

このソリューションは、DHCPを使用してIMCをIP化するお客様向けです。XML APIを使用して1つ以上のシステムにログインし、「all PCIe Slots OptionROM」フラグを正しく設定します。サンプルスクリプトは次のとおりです。

ステップ 1：次のページからIMC PowerToolモジュールをダウンロードします。

[IMC PowerTool](#)

次のファイルを<filename>.ps1ファイルとして保存して実行します。

インポートモジュールCiscoUcsPs

```
$multiimc = Set-UcsPowerToolConfiguration -SupportMultipleDefaultUcs $true
```

```
#このツールは、実行時にユーザにIPの入力を求めます
```

```
$imclist = Read-Host "Enter Cisco IMC IP or list of IMC IPs separated by commas"
```

```
[array]$imclist = ($imclist.split(",")).trim()
```

```
$user = 'admin'
```

```
#デフォルトのパスワードは次の行にあります (必要に応じて更新)
```

```
$pass = ConvertTo-SecureString -String "password" -AsPlainText -Force
```

```
$cred = New-Object -TypeName System.Management.Automation.PSCredential -ArgumentList  
$user, $pass
```

```
$out = Connect-Imc - クレデンシャル$cred $imclist
```

```
Set-ImcRackUnit -RackUnit 1 -AdminPowerソフトシャットダウン - Force
```

```
Get-ImcBiosSettings | Get-ImcBiosVfPCIOptionROMs | Set-ImcBiosVfPCIOptionROMs -  
VpPCIOptionROMs "Enabled" -Force
```

```
スリープ25
```

```
Set-ImcRackUnit -RackUnit 1 -AdminPower up -Force
```

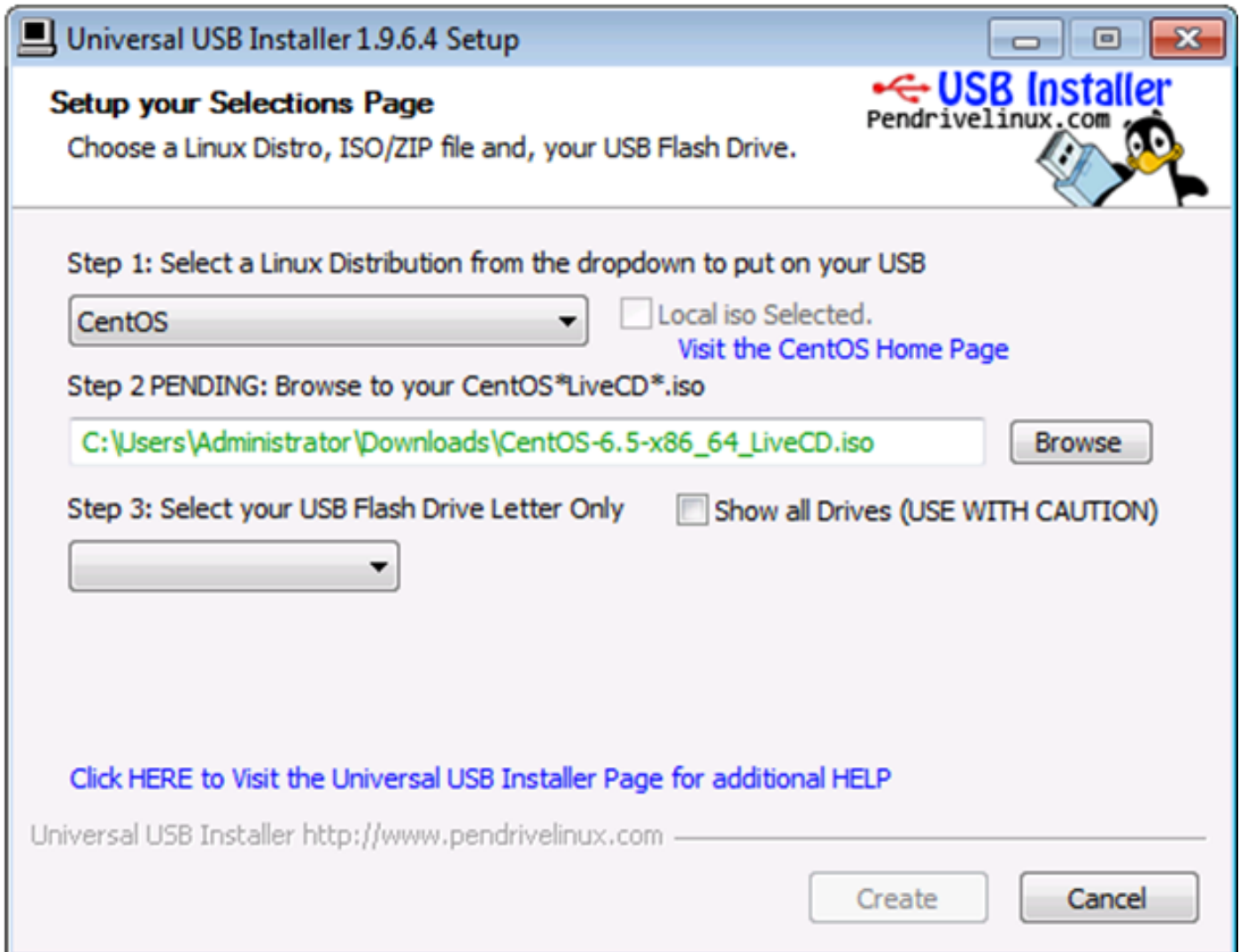
```
$out =接続解除Imc
```

回避策#4(Live Linux USB with UCScfg):

この回避策には、OptionROMの設定を修正するために必要なツールを含む、ブート可能なライブUSBを作成する必要があります。これには、少なくとも4 GBの空のUSBが必要です。注：次の手

順は、Windows 7で実行しました。

1. ライブ.isoイメージをダウンロードしてください。[ライブCD](#)
2. ユニバーサルUSBインストーラはこちらからダウンロードしてください。
<http://www.pendrivelinux.com/universal-usb-installer-easy-as-1-2-3/>
3. UUIを起動し、目的のLinuxディストリビューションとしてCentOSを選択します
4. ステップ1でダウンロードした.isoにUUIをポイントします。
5. インストールするUSBドライブを選択し、[作成]をクリックします。プロセスが完了するまで待つてから、USBを使用する準備が整います。



6.該当するサーバにUSBを接続し、必要なブートデバイスとして選択します。

注：上記のイメージがロードされたUSBがCentOSで起動し、一連のUCScfgコマンドを起動します。この特定の.isoはオプションROMの設定を修正し、MLOMポート0を最初のブートデバイスとして設定します。設定の変更が完了すると、サーバの電源がオフになります。変更は、次回の電源オン時に反映されます。UCScfgを使用して必要に応じてBIOS/IMC設定をカスタマイズできます。上記のプロセスは一例にすぎず、この記事で説明されている問題を修正します。